

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 吹田市立博物館 館長 御名前 中牧 弘允 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非するべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを学術的にも芸術的にも、また SDGs という目標に照らしても、現段階における世界最高レベルに照準を合わせて表象・演出することが肝要である。
- 70 年大阪万博のときには太陽の塔の内部空間に「生命の樹」という進化モデルに準拠した展示がなされたが、25 年大阪・関西万博ではテーマ館のなかに「持続的発展」モデルにもとづく展示が期待される。
- 70 年大阪万博のときには「お祭り広場」がもうけられ、そこがパビリオン群にかこまれた中空構造となっていて、人びとの交流・交歓の場として機能した。25 年大阪・関西万博では 5カ所に「空」とよばれる大広場が設置されるが、そこもまた「空」であるがゆえに多種多様な交流・交歓が可能となるような、ユニークな演出が期待される。
- 「空」は仏教の伝統で言うと禅に通じるが、「未来社会」は仏教的には「浄土」や「極楽」に相当する。ただし、そこには大きなちがいもある。なぜなら、浄土や極楽が来世であるのに対し、未来社会は現世だからである。来世を説き責任をもつのは宗教家であるが、後世を語り責任をとるのは広い意味でのインテリゲンチア（識者、文化人）である。その点、現世の利益（りやく&りえき）を語るだけで責任をとろうとしない人びとは区別される。
- 未来社会を構想しデザインするのは良い意味でのインテリゲンチアであってほしい。エコノミック・アニマルなどと揶揄されるような存在であってはならない。
- 聖徳太子が建立したとされる四天王寺は大阪湾に沈む夕陽をながめ浄土を夢想する人びとを多数惹き寄せた名刹である。西門は極楽門とよばれ、日想観という修行が空海によってなされたとの伝承をもつ。それが 21 世紀に復活し、春秋の彼岸ににぎわいを取り戻している。夢洲の万博もまた夕陽を眺めながら「いのち輝く未来社会」を構想する場になることを期待したい。
- 大阪商人の間では「始末」が美德として奨励されてきた。始末とはほんらい仕掛けと片付けのことをさす。「始末に負えない」ことは美德の正反対である。70 年大阪万博のレガシーとして太陽の塔があり、その内部展示を担った世界の民族資料は国立民族学博物館の設立に多大な貢献を果たした。25 年大阪・関西万博のレガシーは仕掛けの段階から構想されることが望ましく、未来社会の実験場としての 25 年万博で練り直されて、後世に残る遺産として継承されることを期待する。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 万博は人類文明の祭典であり、課題解決の実験場でもある。たんなる科学技術の見本市でも、これみよがしの国威発場の舞台でもない。
- 日本の祭りは痕跡を残さないことが原則であるが、心と心をつなぐ祭りの体験は貴重であり、祭りを通して地域の伝統が維持・継承されてゆく。万博もまた痕跡をとどめないことが基本であり、パビリオン（見世物小屋）は撤去され、高揚した非日常の世界は日常の静かな生活に戻ってゆく。しかし、万博から諸種のインフラはもとより、多くの博物館、美術館や公園、娯楽施設が誕生したことも事実であり、その生みの親としての万博の役割は大きい。
- 25 年大阪・関西万博のテーマに鑑み、かつ SDGs の目標に資する施設（パビリオンやモニュメント）を構想する場合、持続可能な人類文明史を考える空間が一つくらいあってもいいのではないかと。たとえば、人類の来し方行く末を見通すような素材をならべ、その持続的発展モデルを国際的な英知をあつめて提示するような展示である。
- 近年、アントロポシーン（人新世、人の時代）という概念が世界的な関心をよんでいる。もともと地質年代とかかわるが、人類が残した痕跡（爪痕）の是非を問うテーマとなっている。提唱者はノーベル化学賞を受賞したポール・クラッツェンであり、日本でも 2016 年に国立科学博物館において国際シンポジウム「アントロポシーンにおける博物館—生物圏と技術圏のなかの人間史をめざして」が開催された。アントロポシーンの概念はいまや地質学を越え、人類史のなかで文明的に考察すべき課題へと変貌を遂げている。先端技術の功罪や持続的発展の意義を人類の歴史という脈絡のなかで問うとしたら、アントロポシーンほど時宜になかった概念はないのではないかと。また SDGs を掲げる国連の協力も得やすいと考える。
- 人類はつねに better life や longer life をもとめてきたが、brighter life となると精神文化を視野に入れる必要がある。たとえば、ブータンの GNH はその参考例となる。それをもしれば、今回の万博がめざすのは GGH (Gross Global Happiness) かもしれない。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 木造建築を多用すること。痕跡を残さず、かつ容易にレガシーに転換しうる点で、木材に勝るものはない。また、国土の大半が森である日本にふさわしい建築様式でもある。
- 70 年大阪万博の遺産である万博公園をサテライト会場の一つとして活用すること。
- 25 年大阪・関西万博のレガシーを夢洲だけでなく、千里万博公園においても実現させること。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 「起爆剤」という表現は物騒であるだけでなく、後始末を考えないという無責任な印象をあたえるので、なるべく避けたほうがいい。
- ライフサイエンスは生命科学と訳されるが、純粋な医学・科学というよりも心理学や人文社会的な意味を含めて強調したほうがおおかたの賛意を得られるのではないかと。